

## 「一番小さな私に与えられた恵み」エペソ3：1－13 堀田修－19・10・13

### I 先行する神の恵み

1. 「あなたがたのために私がいただいた、神の恵みによる私の務め」：2。神は、私達、一人一人に、相応しい努め、役割、奉仕を与えておられる。神が、私達を用いて下さる恵みを感謝します。

2. 「この奥義（福音、神の救い）は、啓示によって私に知らされたのです」：3。パウロには、神の啓示によって神の救いが知らされた。私達には、神の啓示がまとめられた聖書を通して、御霊なる神が、神の啓示である聖書が理解できるように、心に理解の光を与えて下さる。それ故に、自分の罪と十字架が「私の罪の為だった」と分かり、主を信じる事が出来る。主を信じ、洗礼受けた後も、ますます、聖書の意味が御聖霊により、理解できるようになる。主を知り続ける恵み。途上者。

3. 「その奥義とは、福音により、キリスト・イエスにあって、異邦人（ユダヤ人だけではない、すべての国の人々、私達も）もまた（神の救いの）共同相続者となり、ともに一つのからだ（キリストのからだである教会）に連なり、ともに（救いの）約束にあずかる者となる」：6。

4. 「私達はこのキリストにあり、キリストを信じる信仰によって大胆に確信をもって神に近づくことができるのです」：12。私達にとって、一番幸せな事は、素晴らしい神、偉大で愛に満ちた神に近づく事が出来る事。キリストが私達を心から愛して、私達の罪の為に十字架で刑罰を身代わりに受けられ、私達の罪の償いが完全に支払われ、その身代わりの償いが完全に神に受け入れられた保証として三日目に復活されたので、私達は、主を信じる信仰により、大胆に確信をもって神に近づく事が出来る。神と交わり、神に感謝し、神に正直に願い事の祈りが出来るのです。

II 素晴らしい神の恵みへの私達の応答＝素晴らしい主を人々に伝える事。「すべての聖徒たちのうちで一番小さな私に、この恵みが与えられたのは、キリストの測りがたい富を福音として異邦人に宣べ伝えるためであり、また、万物を創造した神のうちに世々隠されていた奥義の実現がどのようなものなのかを、すべての人に明らかにするためです」：8，9。

1. パウロは以前は、神を汚す者、迫害する者、暴力をふるう者でした（Iテモテ1：13）。しかし、全能の「神の力の働きにより」彼は救われた（使徒9：1－19）。それ故に、人々の救いの為に祈り、福音を伝える時、この人は無理と勝手に決めつけてはならない。頑固な私達さえ救われた。全能の神を信頼して、祈り、愛を示しつつ、主を伝え続けよう。祈り、愛を示し、主を伝えるのは、人の分、しかし、人の心を変え、主を信じる信仰を与えるのは神の分。ここをしっかりと区別して歩みたい。私達は、罪多く、自分の罪の故に、裁かれ滅んで当然の者でしたのに、神の深い憐れみと恵みの故に救われ、神が私達に主を伝えてくれる人を遣わし、救われ、奉仕させていただけることを深く神に感謝したい。

2. 「すべての聖徒たちのうちで一番小さな私に、この恵みが与えられたのは」。主にあって主の姿に成長し続けるパウロの自己認識の深まり。素晴らしい御言葉の発見に感動させられる！彼が、主にあって成長し、聖められるに従って、謙遜になって行った姿、自己認識の変化を見ましょう①AD（アンノ・ドミニ。ラテン語。「主の年」の意。クリスマスから何年）55か56年頃「私は使徒の中では最も小さい者であって、使徒と呼ばれる価値のない者です。なぜなら、私は神の教会を迫害したからです」（Iコリント15：9）。②AD61年頃「すべての聖徒のうちで一番小さな私」：8。使徒の中では最も小さい者という自覚から「すべての聖徒（キリスト者）のうちで一番小さな私」と言う自覚へ、謙遜。③AD63年頃『キリスト・イエスは、罪人を救うために来られた』ということばは、まことであり、そのまま受け入れるに価するものです。私はその罪人のかしらです」（Iテモテ1：15）。使徒の中、次に聖徒のうちで一番小さな者から、「罪人のかしらです」ともって、心からへりくだって行く。人間的自己卑下、演技ではなく、心からの深い罪の認識。彼は、主を信じて、主の姿に聖められれば聖められるほど、自分の心に主の光が照らされ、自分の内面の罪深さの理解が深まったという事。パウロが

謙遜であり続けたので、神は彼を用い続けられた。主にあって聖められ続ける人は、自らの小ささと罪深さを深く知り続ける。そしてその分、神の恵みの偉大さ、神の愛の大きさを深く知り続け感謝に満たされる。私は「罪人のかしらです」という自覚と、私は、「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している」と語られる神に心から愛されているという自覚、感謝、自己価値観は、矛盾しない。心からの感謝と神への賛美が生まれる！「私は最も小さく、罪人のかしらです。自分の罪故に、とっくに滅んで当然の者です。しかし、こんな私を愛し救い『わたしの目には、あなたは高価で尊い。私はあなたを愛している』と語りかけ、今日まで見捨てずに支えて下さっている事を心から感謝します」と！神は、へりくだる（自らの罪深さと神の恵みの偉大さを自覚する）者に恵みを与え、神の御用の為に、その人を用いられる。「神は、高ぶる者を退け、へりくだる者に恵みをお授けになる」（ヤコブ4：6）。「主の御前でへりくだりなさい。そうすれば、主はあなたを高くしてくださいませ」（4：10）。神は、高ぶる人（神の力で出来た恵みを忘れ、自分を誇る）を用いられない。

3. この恵み（神の素晴らしい救い）が与えられたのは＝「私がキリストの測りがたい富（救いの豊かさ）を異邦人に宣べ伝え」：8。パウロは、自らを一番小さいと自覚し、その自分が宣べ伝えるキリストの救いの恵みは、小さくはなく、「測りがたい富」と自覚していた。罪多い私達も、神の大きな愛と一方的な恵みで救われたのは、キリストの測りがたい富・豊かな救いを人々に宣べ伝える為。主と共に福音を伝えることが出来るのは、幸いな事。教会福音讃美歌475。私達にも、主は、福音を伝えて下さる人々を与えて下さった恵みを心から感謝したい。神は、親（クリスチャンホームに生まれたのも神の御計画。初めは窮屈に思えても、後に感謝へ）、親族、知人、友人、礼拝、チラシ、ラジオ・テレビ放送、HP、コンサート、色々な集会、教会堂他、色々なものを用いて、私達に、主を求めるきっかけを、主を信じる心を与えて下さったのです。私にも、絶妙のタイミングで、悩み落ち込んでいた私のもとに友人を神が遣わして下さい、教会に行くきっかけを下さった恵みを今でも心から感謝しています。主が満ち満ちて下さる礼拝、礼拝メッセージ、賛美、証し、礼拝後の愛の声掛け、自己紹介、暖かい交わり（また教会に行きたい思いへ）、すべてを神は用いて、人々の心に働き、主を証しして下さい。「聞いたことのない方を、どうして信じることができるでしょう。宣べ伝える人がなくて、どうして聞くことができるでしょう。ローマ10：14。

祈り：迷える羊である私を捜し出し教会に導いて下さり感謝します。私にも、私を教会に誘って下さる方や、イエス様の事を伝えて下さる方を与えて下さり心から感謝。そして、聖霊なる神が、私の心に罪がたくさんある事に気付かせ、その罪の為に主が十字架で死なれ、復活された恵みを信じる信仰を与えて下さり感謝。私も主の恵みに満たされ、主が導かれる方の為に祈り、愛を示し、主の救いの豊かさを伝える機会を与えて下さい。

Ⅲ 主を伝える時、助けとなるみことば。主と福音を伝える伝え方。証し：失敗から学び続けている事と主の驚くべき御業。伝道はテクニックではなく、御聖霊の御業。と同時に、私達の祈り、愛、伝道を用いて下さる。

1. 「イエスは、…多くのたとえをもって、彼らの聞く力に応じてみことばを話された」マルコ4：33
2. あせって語るのではなく、まず愛をもって、相手に寄り添い、相手の話に耳を傾け、信頼関係を作る。「人はだれでも、聞くのに早く、語るのに遅く、怒るのに遅くありなさい」ヤコブ1：19
3. 「希望（主の救い）について説明を求める人には、だれにでも、いつでも弁明できる用意をしていなさい」Ⅰペテロ3：15。準備し祈っていると、主は、相手の心を開き、伝える時を与えて下さる。
4. 主の愛を受け、相手を受け入れ、仕える愛。「愛をもって真理を語り」エペソ4：15。人は自分を受け入れてくれる人に心を開く。「愛がなければ、何の役にもたちません」Ⅰコリント13：3。愛から真理へ。
5. あきらめずに祈り続けよう！福音の種を蒔き続けよう！蒔かれた福音の種は、いつ、どこで芽を出すかわからない。皆さんの救いも、他の方々も。ある方々は、他の地か、ここで蒔かれた福音の種が芽を出し救われる！人の分＝祈りつつ愛を示し、福音の種を蒔く事。神の分＝人を救い、成長させる事。※証し。